

# 東広島医療センター 呼吸器グループ



## *Updated Topics and Report (3<sup>rd</sup> issue)*

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東広島医療センターの呼吸器グループは、広島中央医療圏において日常診療に携わっておられる先生方へ、定期的に“**Updated Topics and Report**”を、お届けしております。

地域医療機関の先生方に信頼していただける医療を提供できるよう今後も診療レベルの向上に努めてまいりますので、大変ご多忙中のところと存じますが、本誌を診療の合間にお読みいただければ幸いです。

今回は『EWS (Endobronchial Watanabe Spigot : 特殊素材を用いた気管支充填術)』のご紹介と『人工心肺下に胸部大動脈弓部の合併切除・再建により摘出できた局所進行肺癌の1例』の報告です。



東広島医療センター呼吸器グループに対するご意見・ご質問・ご感想、またお知りになりたい情報等ございましたら担当医もしくは地域連携室までご連絡いただけますと幸いです(地域医療連携室 FAX : 082-493-6488)。

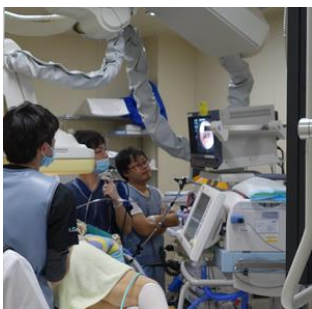
2018年3月

### ▶ 特殊素材を用いた気管支充填術 : EWS (Endobronchial Watanabe Spigot)

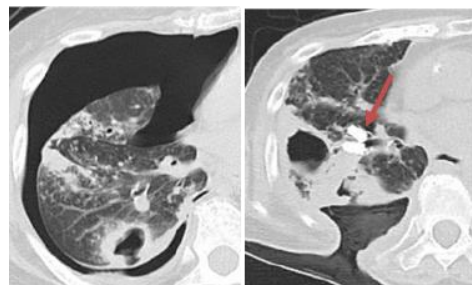
気管支充填術は軟性気管支鏡を用いて充填剤を気管支に詰める治療法で、肺切除術後の気管支瘻や難治性気胸、有癭性膿胸、喀血などに有効であり、特に外科手術への耐術能が低い患者さんが適応になります。充填剤としてはシリコン製のEWSの有効性がほぼ確立しています。



当院は広島県において数少ない実施施設のひとつであり、十分な鎮痛鎮静のもと、気管挿管人工呼吸管理下にて施行することで患者さんの負担軽減に努めています。



今後、充填剤の改良や適応の拡大が期待されるとともに、充填方法にもより一層の習熟が必要と考えています。



なお第68回結核病学会中四国支部会において発表した『気胸ののちに有癭性膿胸に至った肺非結核性抗酸菌症に対して集学的治療を行った1例』が優秀演題に選出されました。

➤ 人工心肺下に胸部大動脈弓部の合併切除・再建により摘出できた局所進行肺癌の1例

(症例) 50代の男性。検診でCEA: 37と異常値を指摘され紹介医を受診し、CT検査にて縦隔型肺癌疑いで当院紹介。胸部単純写真では異常指摘不可能(図1)だが、胸部CTならびにPET-CT検査にて大動脈弓部に浸潤する肺癌が疑われた(図2, 3)。



図1



図2

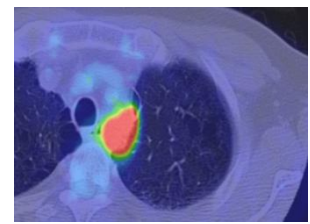


図3

(呼吸器グループカンファレンス) 胸腔鏡下での腫瘍生検を行い肺癌の診断をえたため、cT4N0M0 Stage IIIAとして術前放射線化学療法を施行の上、切除術を行う方針となった。

(治療経過) 放射線治療(40Gy/20fr)と化学療法(weeklyカルボプラチン+TS-1)を施行後、胸骨正中切開に第4肋間開胸を繋げたヘミクラムシェル approachで手術実施。腫瘍浸潤を認めた左鎖骨下動脈ならびに大動脈弓部を人工心肺使用による呼吸循環補助下に合併切除を伴う、左上葉切除および胸部大動脈切除・人工血管再建術を施行した(図4)。

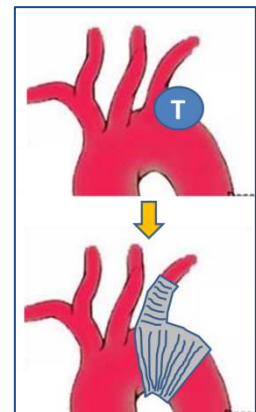
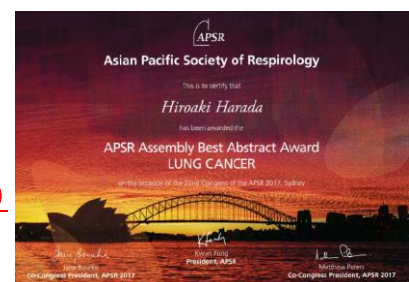


図4

(病理検査所見) 径17mmの低分化充実型腺癌で、大動脈外膜まで浸潤を認め、ypT4N0M0 Stage IIIA, R0(顕微鏡学的完全切除)と診断された。

(考察) 胸部単純写真では判別不可能な局所進行肺癌に対して、術前放射線化学療法をおこない、人工心肺補助下に完全切除が施行された。本例も東広島医療センターにおける**複数科(呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・心臓血管外科)**の充実した医療スタッフが協力して**集学的治療を実施し完全切除できた症例**であった。

➤ 呼吸器外科：原田医師が2017年11月にシドニー(オーストラリア)で開催された第22回アジア太平洋呼吸器学会(APSR2017)において肺癌部門における最優秀演題賞(APSR Assembly Best Abstract Award of Lung Cancer)に選出されました。



広島中央医療圏における呼吸器関連症例の3~4割が広島や呉等の域外で治療を受けられていると推測されます。これは我々のグループが地域医療に携わっておられます先生方や地域の皆さんにまだ十分な信頼が得られていないことも一因と考えております。

この医療圏の中でも最高レベルの医療サービスを提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療を行ってまいります。また**原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するように心がけております**。何かご不明、ご不満な点などございましたら担当医までご一報頂けたら幸いです。